

RECRUIT BOOK RESIDENT

初期臨床研修医 募集案内

2027



地方独立行政法人 **県立二葉の里病院**
広島県立病院機構

Hiroshima Prefectural Hospital Organization Futabanosato Prefectural Hospital

Futabanosato Prefectural Hospital

病院理念

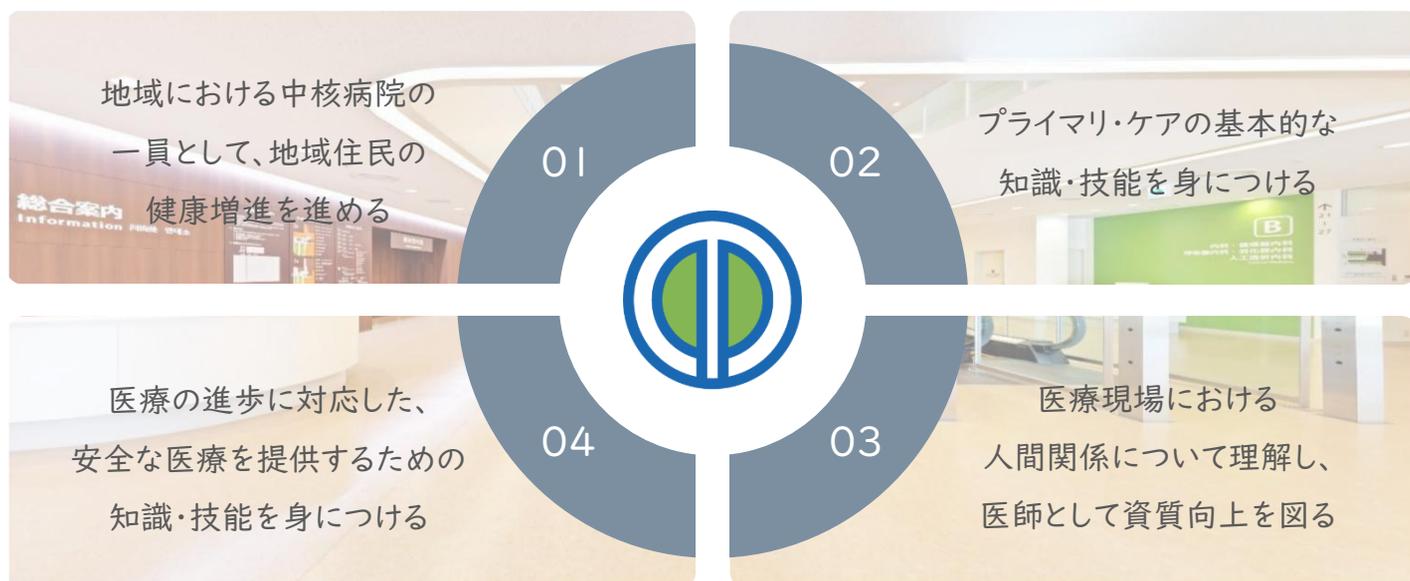
優しさと誠実な医療で更なる地域貢献をめざします

良質で安全な医療

患者さんと
共に築く医療

健全な運営による
医療の提供

県立二葉の里病院病院では、4つのコンセプトを掲げ、
経験豊富な指導医をはじめ全職員が研修をサポートします



“ワーク・ライフ・バランス”を実現し、
充実した研修を——



好立地

広島駅から
徒歩5分

広島大学病院から
車で10分



病院の概要

所在地 広島市東区二葉の里三丁目1-36

設立日 2016年2月22日

職員数 545名(2026年1月現在)

病床数 269床(一般[7:1]病棟 208床、地域包括ケア病棟41床、緩和ケア病棟 20床)

診療科 内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、脳神経内科、外科、消化器外科、救急科、人工透析外科、整形外科、眼科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、病理診断科(歯科口腔外科、精神科・・・入院患者のみ)

初期臨床研修医 を目指す皆さんへ

歴史の散歩道 の中で未来志向の研修を――。

顧問 田妻 進

県立二葉の里病院は広島市が誇る“歴史の散歩道”の中に位置しています。

広島駅北口に隣接する利便性ととも、前身の広島鉄道病院に因んで今なお“鉄道病院”の通称で広島の地域住民に親しまれている当院の特徴は、地域医療支援病院として救急医療を含めた急性期医療から慢性期医療を幅広く担いつつ、地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟を完備した総合病院として、都市部における急性期・慢性期・回復期の包括的役割を担っていることです。

初期研修の到達目標、その次のステージである基本領域専門研修へのシームレスな指導が行える都市型・臨床研修病院であるとともに、オール広島で展開する統合型メガホスピタル整備プランを広島県とともに進めている当院で10年後のキャリアを見据えた初期研修を始めませんか。

未来志向の研修希望者をお待ちしています。



出合いを大切にしてほしい。

臨床研修部長 / プログラム責任者
中山 宏文

医学科卒業後の10年間をどのように過ごすかで、皆さんの将来が決まります。人間性や実地診療等で優れた医師や医療スタッフとの出合いを大切にしてほしい。とくに初期研修の2年間は重要です。患者さん中心に、医師および医療スタッフとの協働を第一に、当院で深く広く学びましょう。プライマリ・ケアの修得とともに、医学知識を深めましょう。選択科目の決定、時期・期間はいずれも柔軟に対応します。ICLSなどのスキルセミナー、研修医向けのレクチャー、診療科横断的カンファレンス(カンサーボード、死亡症例検討会、CPCなど)が定期的で開催される教育的な環境です。ぜひ、当院で初期研修を――。



自由度の高さが魅力。

循環器内科 診療部長 / プログラム副責任者
寺川 宏樹

当院は269床の中規模病院ですが、その分自由度が高く自分の思うような研修プログラムを計画しやすくなっています。また、院内外の講習にも自由に参加できます(病院からの補助あり)。当院を活気ある病院に高めていくためには、みなさんの新しく若い力・知識が必要です。是非、当院に来て我々と一緒に実りある研修・診療を試してみませんか。



研修プログラム紹介

研修の概要

当院の研修プログラムについて

地域内中核病院として2次救急病院機能を備え、プライマリ・ケアを中心に一般的に頻度の高い疾患に対応できる能力を身につけるプログラムとしています。

地域医療研修

臨床研修協力施設で、地域医療チームの一員となって取り組めます。

必修科

60週

内科

院内の以下の診療科から選択し、**24週以上**研修する。

- 消化器内科 ●循環器内科 ●呼吸器内科
 - リウマチ膠原病内科 ●内科・総合診療科
- (予定 2027年4月～)

外科

院内で、**8週以上**研修する。

小児科

院内で、**4週以上**研修する。

精神科

以下の協力型病院で**4週以上**研修する。

- ✔ 県立広島病院 精神神経科
- ✔ 草津病院 精神科

選択科

44週

二葉の里病院

- 整形外科 ●皮膚科 ●泌尿器科 ●眼科
- 放射線科 ●人工透析外科 ●病理診断科
- 耳鼻咽喉科 ●リハビリテーション科
- 緩和ケア内科 ●健診センター

院外

- ✔ 翠清会 梶川病院 脳神経内科
- ✔ 広島市立舟入市民病院 小児科
- ✔ 県立広島病院 新生児科、腎臓内科、脳神経内科
糖尿病・内分泌内科、臨床腫瘍科
- ✔ 広島がん高精度放射線治療センター (HIPRAC)
- ✔ 近森病院 救急科

必修科

当院での内科24週、外科・救急各8週、小児科4週の研修と、当院または協力型病院・施設での麻酔科・精神科・産婦人科各4週の研修をご用意しています。

選択科

各自の希望に応じた選択分野をオーダーメイドできます。

- ✔ 協力型臨床研修病院
- ✔ 臨床研修協力施設

産婦人科

以下の協力型病院で**4週以上**研修する。

- ✔ 広島赤十字・原爆病院 産婦人科
- ✔ 市立三次中央病院 産婦人科
- ✔ 県立広島病院 産婦人科

麻酔科

院内または、以下の協力型病院で**4週以上**研修する。

- ✔ 広島赤十字・原爆病院 麻酔科

救急科

院内で、**8週以上**研修する。

地域医療

以下の協力型施設で**4週以上**研修する。

- ✔ 山崎病院
- ✔ 広島東保健センター (1日)
- ✔ 済生会 呉病院
- ✔ 平戸市民病院

当院・協力型臨床研修病院での必修科は、選択科としても研修可能

研修プログラム紹介

研修ローテート

自由度の高さが魅力

前年度2月頃に希望ローテを提出いただき、できるだけ希望に沿って作成します。
必修科をなるべく早めに、特に内科は1年目の早い時期を推奨していますが、1年目で選択科を複数選択することも可能です。

“1診療科1研修医”が基本

指導医とマンツーマンで指導を受けられます。
複数の研修医が同時期に同じ診療科にならないようローテを組んでいます。

先輩職員の声

指導医の先生方の指導が丁寧で、研修の環境としては最高です。

Ukai Shoichi

01 研修先として当院を選んだ理由を教えてください。

同じ研究室の先輩から勧められたということもあり、実際に見学・実習を当院で行いました。その際に皆さんが丁寧に対応してくださり、ここは研修のしやすい病院だと思ったのが一番の理由です。

02 他の病院と比べて特徴的なことはありますか？

指導が手厚いことが当院の特徴で、約一年半勤務して、一人で途方に暮れるような経験はありませんでした。研修医自身にも判断させる際には研修医の理解度をまず確認し、不十分な点があれば着目すべき部分のヒントや文献を与えた上で考えるようフォローしてもらえます。また、初期研修医が触れる範囲が広いです。同時に同じ診療科を回る研修医は1人なので、扱っているすべての症例を診ることができるのも特徴です。

03 印象的だったエピソードはありますか？

就職してすぐに呼吸器内科で新型コロナウイルス感染症を多く診させていただいたことが印象的でした。入院される方はご高齢の方が多く、基礎疾患の加療と並行して感染症治療を行う難しさを感じました。当時は2類感染症から5類感染症への移行期であり、病棟のメンバーが今後の方針について話し合いながら結束して日々の診療にあたっていた姿が印象的でした。

04 研修の環境はいかがですか？

充実した指導に加え、労働環境も良く、最高の研修環境であると考えています。職員の皆様が研修医の仕事について普段から気にかけてくださり、本当にありがたく感じています。
私は病理診断科を目指しているのですが、病理学的所見の記載方法や肉眼的な観察方法など、非常に丁寧に教えていただけるのでこの病院で研修をしてよかったと感じています。細胞診について直接検鏡指導を受けることもでき、皮膚病理学の勉強会も定期的に開催されています。病理学に興味がある方にとっては特に良い環境であると感じます。

05 院外（協力病院）での研修はいかがでしたか？

現在は3つの院外研修を修了しています。どの協力病院の皆様も非常に暖かく迎えてくださいました。日赤の産婦人科では腫瘍の手術や分娩を多く経験するとともに、化学療法についても学ぶことができました。抄読会もあり、最新の知見にも触れることができました。草津病院では特に電気けいれん療法が印象的でした。入院診療にあたりつつ、外来診療も多く見学の機会をいただきました。山崎病院では入院診療に加え、指導医の先生の監督のもと外来診療の経験を積むことができました。往診にも同行し、貴重な機会となりました。



鵜飼 翔一
2024年度 2年次
大阪府出身

06 研修医になる方へ、メッセージをお願いします。

規模感が合う方でしたら絶対にいい環境だと思います。どんな方に対してもお勧めできる病院だと思いますので、とりあえず一回来てみて欲しいです。

必修科

選択科

term	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1年次	呼吸器内科		消化器内科		リウマチ	循環器内科	小児科	麻酔科		外科	救急	産婦人科(日赤)	救急	
2年次	病理	精神科(草津)	地域医療(山崎)		病理	呼吸器内科	消化器内科	放射線科	脳神経内科(梶川)		病理	健診センター	外科	病理

重篤な患者さんの救急搬送は、
緊張感があり貴重な経験になりました。



Kimura Motohiko

木村 元彦
2024年度 1年次
広島県出身

01 他の病院と比べて特徴的なことはありますか？

良し悪しがあると思いますが、研修医や3年目以降の若手の先生が比較的小さいかなと思います。その分指導の先生がしっかり見てくれる点は良い点かと思えます。院内が綺麗で、独立した研修医室があるところも良いです。研修中リラックスできる空間は欲しいと思っていたので。

02 印象的だったエピソードはありますか？

救急センター研修中に経験した転院搬送が印象的でした。頭の疾患の患者さんで、病態がかなり悪く、搬送中に何か異変があれば僕が対応しないとイケない状況でした。結局何も起こらず、何もしていないのですが、緊張感のある現場でした。

03 現在研修中の“リウマチ・膠原病内科”の1日を教えてください。

午前中は病棟での業務です。回診して、カルテを書いて、検査結果などを見て評価をします。午後からは、科でのカンファレンスで入院患者の状態を共有し、今後の治療方針を議論するのですが、そこに参加させてもらっています。

04 “救急センター”での1日を教えてください。

8時30分から、採血室で患者さんの採血をします。看護師さんや臨床検査技師さんと一緒に外来患者さんの採血をしますが、人によって血管の見え方が違うので難しいです。採りやすい患者さんに対する採血は結構上手だと思っています。難しい患者さんでも、ベテランの看護師さんや技師さんがサポートしてくれます。そして、10時ぐらいから電話がかかってきて、救急患者の対応をして、カルテを書いての繰り返しです。僕が回った時期が夏で、熱中症の患者さんなど、患者さんの数かなり多く大変でしたが、数をこなせてとても有意義な研修になりました。

05 研修医になる方へ、メッセージをお願いします。

自分のペースで研修できる病院だと思います。自分だけに任されることはあまりなく、1人で立ち往生することがないので、その点では心強いですし、最初にも言いましたが、若手の先生が少ないので、主体的にやろうと思えば色々できる環境だと思います。

term	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	救急センター	リウマチ	放射線科	リウマチ	病理診断科	リウマチ	麻酔科	産婦人科(三次中央)	小児科	

マイナー科志望にとって、

1年目から選択科を回れるのはありがたいです。

01 研修先として当院を選んだ理由を教えてください。

1年目から選択科目を回れたり、柔軟な研修プログラムに魅力を感じたからです。また、病院見学の際に指導してくれた先生がすごく優しく丁寧で、この病院だったら充実した研修ができると思いました。皮膚科の見学をさせていただきました。

02 ローテーションはどのように決めましたか？

まずカルテの書き方や薬のオーダーなどの病棟業務を学ぶために内科系を回りたいと思っていました。実際にたくさんの入院患者の対応をすることで、病棟での業務はかなり学べました。また、内科系だと、近くのクリニックからの紹介の急患を診ることで、救急対応なども身に付くと思ったので初めに内科系を入れました。

その合間合間に、自分の興味のある科を選択科として入れさせてもらいました。皮膚科と眼科を入れさせてもらいましたが、理由としては、3年目以降の進路を決めるうえで、マイナー科の方が入局までの締め切りが早かったり、そもそもの応募人数の枠が少ないので、早めに経験しておきたかったからです。

例えば2年目の4月に皮膚科を研修して興味を持って、そこから動き出したらちょっと遅い場合もあるかもしれないので、1年目のうちに選択科を回れることはすごいメリットだと思います。

03 他の病院と比べて特徴的なことはありますか？

1診療科1研修医が基本とされているので、症例を取り合ったりすることがなく、指導医の先生から自分だけを見てもらえるので充実した指導を受けられます。

また、中規模な病院だからこそですが、大半の職員の名前は分かる(名前前は分からないことはありますが、、、)ぐらいの距離感なもの良いと感じます。



上田 桂太郎
2024年度 1年次
熊本県出身

Ueda Keitarou

Wada Emi

和田 恵美
2024年度 2年次
広島県出身



“自分がこうなりたい”という思いを実現しやすい環境です。

01 研修先として当院を選んだ理由を教えてください。

研修科をフレキシブルに自分で好きなように組めるところが魅力的でした。私は精神科に進むことを考えているのですが、院外で2つの病院を選べるので、自分の興味に合わせてできるというのがすごくいいなと思い、この病院を選びました。

02 ローテーションはどのように決めましたか？

最初のうちに内科を経験して、救急対応をできるようになりたかったので、内科で固めさせてもらいました。あとは他の必修科を早めにまわりたいだったので、それを後半に組みました。

救急も早めに組んでいたんですが、救急をやる前に画像を読めるようになった方が良かったと思い、途中で放射線科に変えさせていただきました。

03 他の病院と比べて特徴的なことはありますか？

まずは立地が良い点です。広島駅から歩いてすぐなので、外の病院にも出やすいです。あとは規模感です。この規模感だと融通が利きやすいので、自分がやりたいと相談するとやらせてもらえる環境です。

04 印象的だったエピソードはありますか？

初めて内科を回らせていただいたのは循環器内科でしたが、早い段階で担当患者さんがお亡くなりになって、その看取り、死亡確認をさせてもらいました。もちろん初めてでしたし、ご家族の方もいるので、どのように立ち振る舞えば良いか難しかったのですが、経験できたことはすごく印象的でした。

05 研修の環境はいかがですか？

他の病院で研修してる人の話を聞いたりするんですけど、当直終わりで帰れない、帰るルールがないというのが当たり前の病院だったりとか、手当があまり出ないとか、自分の思っていることを上の先生になかなか言いにくいとか、...そのようなことがこの病院にはなくて、自分がこういう研修がしたいという思いを上の方に伝えると色々とお話を聞いてくださることが多くて、労働環境も整ってるのですごく恵まれてるなと思います。

06 研修医になる方へ、メッセージをお願いします。

自分で目標に向けてフレキシブルにプログラムを組めたり、“自分がこうなりたい”という思いを実現しやすい環境だと思うので、2年間モチベーションを保ちながら楽しく研修ができるかなと思います。是非この病院と一緒に研修しましょう。

term	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
1年次	外科		循環器内科		消化器内科	リウマチ	呼吸器内科		放射線科	救急	産婦人科(日赤)	脳神経内科(梶川)	精神科(県立広島)	
2年次	麻酔科	皮膚科	地域医療(平戸)	皮膚科	放射線科	消化器内科	小児科	救急(近森)	救急	耳鼻科	精神科(草津)	精神科(草津)	精神科(県立広島)	呼吸器内科

04 印象的だったエピソードはありますか？

消化器内科を研修中に、近くのクリニックからの紹介で腹痛がずっと続いている患者さんがいました。最初は原因が分からなくて、上部・下部のカメラをしても特に異常がなくて、上級医の先生方と悩みました。結局、抗生剤を使った既往がないと疑うことがない病気で、問診では抗生剤を使われてないことを確認していたので驚きましたが、色んな可能性を考えて検査をしたり、調べたりすることが大事なんだと実感しました。最終的にその病気の診断ができ、治療もうまくって患者さんは無事退院されました。

上級医との距離感が近く、指示を出されるだけではなく、「どう思う？」と聞いてもらえるし、そうすると自分の意見を言える機会もあるので気持ちの面での研修の環境もとても良いと感じます。

05 研修の環境はいかがですか？

病院見学に来てもらえば一目瞭然だと思いますが、設備がすごく綺麗だし、広島駅から徒歩5分という立地も良いです。

また、他職種の方がすごく優しく対応してくれるので、今時点で半年研修していますが、「困ったな」とか「嫌だな」と思うことはなく、快適に過ごせています。看護師さん、臨床検査技師さん、薬剤師さんと関わることが多かったのですが、最初は僕たちは本当に何も分からないので、基礎的なところから教えてください、全然嫌な顔をされません。すごく助かっています。

06 現在研修中の“皮膚科”の1日を教えてください。

午前中は外来です。アトピーや乾癬など、皮膚のあらゆる疾患の患者さんが来られるので、診察をして薬を出したりします。あとは、例えば皮膚のびらんがあれば、ワセリンを塗ったり包帯を巻いたりなど、簡単な処置をさせてもらいます。

外来の見学は4週の中での工程があり、ここからは診察してみようというようなタイミングで初診を取らせてもらっています。初診は難しいです。異常な所見を汲み取るためには正常を知らないと出来ないし、患者さんとのコミュニケーションが大事と感じます。僕がやった問診・身体診察と上級医がやったそれとは得られる情報が全然違うので、もっと勉強しないといけないなと思います。

午後からは手術がある日はそこに入れてもらえます。簡単な縫合や処置を経験させてもらいました。

縫合の練習は、先輩に教わったり、研修医室のキットを使ったり、研修医同士で切磋琢磨しています。

term	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1年次	リウマチ・膠原病内科		循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	皮膚科	産婦人科(日赤)	眼科	救急センター	外科	精神科(県立広島)	麻酔科	消化器内科

充実の支援体制

📖 研修医レクチャー

原則月2回、上級医から研修医に向けてレクチャーをしてもらいます。
2月、3月には、2年次研修医による症例報告を行っています。



	診療科	テーマ
5月	緩和ケア科	アドバンスケアプランニング
6月	人工透析科	腎代替療法(特に腹膜透析について)
	小児科	虐待が疑われる児への対応
7月	眼科	眼科救急疾患
	外科	縫合実技
8月	リハビリテーション科	リハビリテーション治療で気を付けること
	循環器内科	胸痛の鑑別、心電図
9月	リウマチ・膠原病内科	免疫抑制薬の使い方
	放射線科	転移性腫瘍に関する豆知識
10月	呼吸器内科	抗菌薬の選択、救急外来での喘息発作・COPD急性増悪へ対応
	麻酔科	手術室外の「麻酔科」
11月	救急科	ABCDの評価方法、気管挿管の実際
12月	皮膚科	褥瘡
	耳鼻咽喉科	口腔・咽頭の診療(実技)
1月	病理診断科	病理診断科におけるノンテクニカルスキル ～独特のコミュニケーション～
	泌尿器科	尿路感染症について
2月	2年次研修医	修了前発表会
3月	2年次研修医	修了前発表会

📖 教育研修会

当院の教育研修委員会が様々な職種の研修会を開催していますが、その中に、研修医向けの研修会もあります。

特別講師

群星沖繩臨床研修センターセンター長

徳田 安春 先生

2025.2

京都大学医学部附属病院
総合臨床教育・研修センター

和足 孝之先生

2025.9

広島大学病院 総合内科・総合診療科

池田 晃太郎 先生

2026.1



内容

- ▶ 研修医プレゼン(症例報告)… 3名程度
- ▶ 特別講師と共に病棟回診
- ▶ カンファレンスの振り返り
- ▶ 講演会



ICLS 講習会

医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、突然の心停止への対応を習得します。

少人数グループでの実技実習を中心としています。救急に関する研修会はICLS以外にもあり、月1回程度実施しています。



CPC (臨床病理検討会)

	回数	剖検数
2019年度	3回	4件
2020年度	2回	0件
2021年度	1回	0件
2022年度	2回	3件
2023年度	1回	2件



当直

回数 月4回まで(当直手当 21,000円/回)

体制 当直医1名 + 副直研修医1~2名

☑ 指導医または上級医と併直とし、研修医単独での当直は行いません。

看護技術研修会

看護師主催の研修にて、基本的な看護技術を学ぶことができます。

- ・注射器・注射針の種類と取扱い
- ・皮下・筋肉注射
- ・静脈注射・アンプルカット
- ・採血
- ・血糖測定

2023年度 基本的臨床能力評価試験(GM-ITE®)において、
当院研修医が好成績を収めました

当院の研修医は、JAMEPが実施する「基本的臨床能力評価試験」を毎年受験しています。

偏差値

当院順位

20

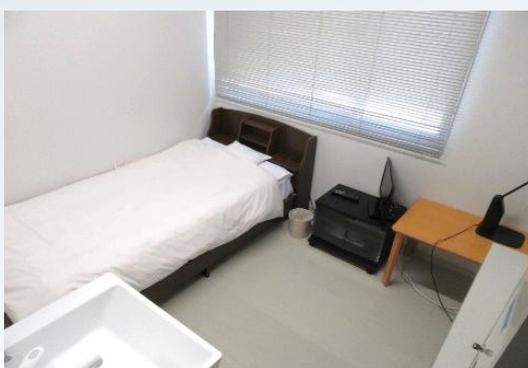
集計対象病院数

493

JAMEP



快適な仕事環境



専用当直室 2部屋完備

- ☑ 研修医2名当直日にもれなく使用可能



図書室

- ☑ 国内雑誌 19種類
- ☑ 海外雑誌 15種類(電子)
- ☑ インターネットサービス



研修医専用室 2部屋

- ☑ デスク10セット
- ☑ 電子カルテ
- ☑ 個人ロッカー

売店等

コンビニ	平日 7時~19時半 土日祝 8時~19時
職員食堂	平日 11時~13時半



研修医処遇

身分	独立行政法人 正規職員
給与	1年次 月額約310,000円(基本給+地域手当) 2年次 月額約320,000円(基本給+地域手当)
賞与	1年次 年額約600,000円 2年次 年額約700,000円
当直手当	21,000円/回(月4回まで)
超過勤務手当	有り
通勤手当	最大98,000円(公共交通機関利用時)
住宅手当	最大28,000円/月
勤務時間	日勤 8:30~17:15(うち1時間休憩) 当直日 8:30~22:00(うち2時間半休憩) ※22:00~翌8:30待機 当直明け 8:30~13:00(休憩なし)
休日	122日
年次有給休暇	1年次 15日間 2年次 20日間
その他	健康診断、各種保険有(地方職員共済組合広島県支部、地共済厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険、医師賠償責任保険)、学術講演会・各種セミナー等出席有

募集要項(2026年4月採用)

募集人数	4名
応募資格	医師国家試験受験予定者 及び 医師国家試験に合格した者
選考方法	応募書類 + 面接
試験会場	県立二葉の里病院
試験日	2025年8月8日(金)、8月26日(火)
応募書類	<ul style="list-style-type: none"> 履歴書(当院様式・自筆)※HP参照 成績証明書 卒業見込証明書 小論文(様式自由・自筆) 小論文は、以下の両テーマについて事前にご提出ください。 ★当院で初期臨床研修を行いたい理由(800字以内) ★自分が目指す医師像(800字以内)
応募書類 締切日	2025年7月23日(水)
応募先	〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目1番36号 県立二葉の里病院 事務部総務企画課 初期臨床研修担当者 宛
その他	・当院は、医師臨床研修マッチングに参加します。

※ 2025年4月以降は、地方独立行政法人広島県立病院機構の制度が適用されます。

病院見学(要予約)

納得のいく臨床研修にしたいと思う方は是非お越しください。

学年を問わず、随時受け付けています。

当院での初期臨床研修を希望される方は、病院見学への参加が必須となります。

ご希望の方は、ホームページ記載の申込書をメールにて送付してください。



詳しい情報はこちらからご確認ください。 <https://futaba.hpho.jp/kenshui/annnai.html>



学会等による施設認定の状況

- ・日本内科学会認定内科専門医教育関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本泌尿器学会専門医制度研修施設
- ・日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設:一般研修施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本動脈硬化学会専門医認定教育施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本肝臓病学会認定施設
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本病院総合診療医学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本超音波医学会専門医研修施設
- ・日本高血圧学会高血圧認定研修施設
- ・日本透析医学会専門医認定施設
- ・日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- ・脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設

県立二葉の里病院DATA

在籍医師一覧 (2026年1月時点)

診療科	氏名	診療科	氏名	診療科	氏名	
消化器内科	田妻 進	消化器外科	住谷 大輔	小児科	下菌 彩子	
	峠 誠司	外科	徳永 真和		安村 純子	
	平本 智樹		井出 隆太	耳鼻咽喉科	宮里 麻鈴	
	山科 敬太郎	松原 啓壮	五月女 有華			
	大原 英司	越智 誠	田中 文香			
	循環器内科	加藤 隆夫	人工透析センター	平昭 吉野	眼科	高本 有美子
		石津 雄亮	整形外科	田中 信弘		世良 有紗
寺川 宏樹		田島 稔章		麻酔科	久保 隆嗣	
橋本 悠	岩佐 和俊	久保田 稔				
土谷 朱子	神原 智大	平良 裕子				
呼吸器内科	峠岡 康幸	泌尿器科	三谷 雄己	放射線科	鈴木 麻倫子	
	稲田 順也		橋本 邦宏		伊達 秀二	
	井原 大輔		井上 勝己		廣延 綾子	
リウマチ・ 膠原病内科	渡辺 裕文	皮膚科	池田 樹生	病理診断科	前田 智郷	
	荒木 慧		鵜飼 麟三		中山 宏文	
	安藤 邦彦		森岡 理恵子		野村 秀一	
緩和ケア内科	寺川 雄貴	産婦人科	山崎 あかり	健診センター	鳩岡 晴奈	
	沖政 盛治		木谷 由希絵			
救急科	伊関 正彦		山縣 麻衣			

診療科別 医師数・指導医数・平均入院・外来患者数

[単位：人]

診療科目	医師数	指導医数 <small>(うち指導医講習会受講者数)</small>	一日あたり 入院患者数	一日あたり 外来患者数
消化器内科	6	6(5)	28.9	49.8
循環器内科	5	5(3)	29.6	54.7
呼吸器内科	3	3(1)	21.7	32.9
リウマチ膠原病内科	4	1(1)	4.4	16.6
外科	6	6(3)	13.6	25.2
小児科	2	2(1)	1.6	23.8
産婦人科	2	2(0)	0.4	12.2
麻酔科	4	4(3)	-	1.0
人工透析外科	1	1(1)	5.6	56.1
整形外科(リハビリテーション科を含む)	6	4(1)	33.8	56.3
皮膚科	2	2(0)	3.8	30.3
泌尿器科	4	3(0)	14.7	38.0
眼科	3	3(0)	3.7	31.2
耳鼻咽喉科	2	1(1)	1.6	20.4
放射線科	3	2(0)	-	9.9
緩和ケア内科	1	1(0)	11.7	1.0
病理診断科	1	1(1)	-	-

医師数・指導医数は令和5年4月1日現在、平均入院・外来患者数は令和4年4月～令和5年3月の数値

県立二葉の里病院DATA

施設・設備



人工透析センター

25床の明るくクリーンな人工透析センターを設け、外来・入院透析に対応。



緩和ケア病棟

最上階に20床全個室の療養環境に配慮した緩和ケア病棟を設置。地域の医療機関と連携し、自宅や医療施設のどちらでも療養できるサポート体制の取り組み。



化学療法センター

化学療法分野の強化。治療に専念できる快適な環境。



手術室 バイオクリーンルーム

クリーン度最高水準のクラス100の手術室を整備し、手術領域を拡大。



健診センター

1日最大30名の人間ドックが実施可能な、独立した快適な環境を整えた健診センターを設置。時代のニーズに合った、最新機器を使用した検査項目を導入。



各種放射線機器



内視鏡センター

独立した内視鏡センターの整備。



院内保育園

育児等を理由とした休職等職員の復職支援を目的とした院内保育園があります。通常勤務時間帯までの就労や乳幼児の病気罹患時の対応等、病院職員が安心して就労が出来る環境を整え、病院全体で「子育て支援」の取り組み強化に向けた環境づくりを行っています。

開園時間	7:30~18:30 (延長保育は19:00まで)
開園日	月曜日~土曜日(日・祝・年末年始休)
種類	月極保育、病児保育、一時預かり保育

研修医もご利用いただけます

ACCESS



〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目1番36号

お問い合わせ

事務部 総務企画課 初期臨床研修担当者

☎ 082-262-1170

✉ saiyou@hpho.jp

初期臨床研修プログラム

Contents

必修

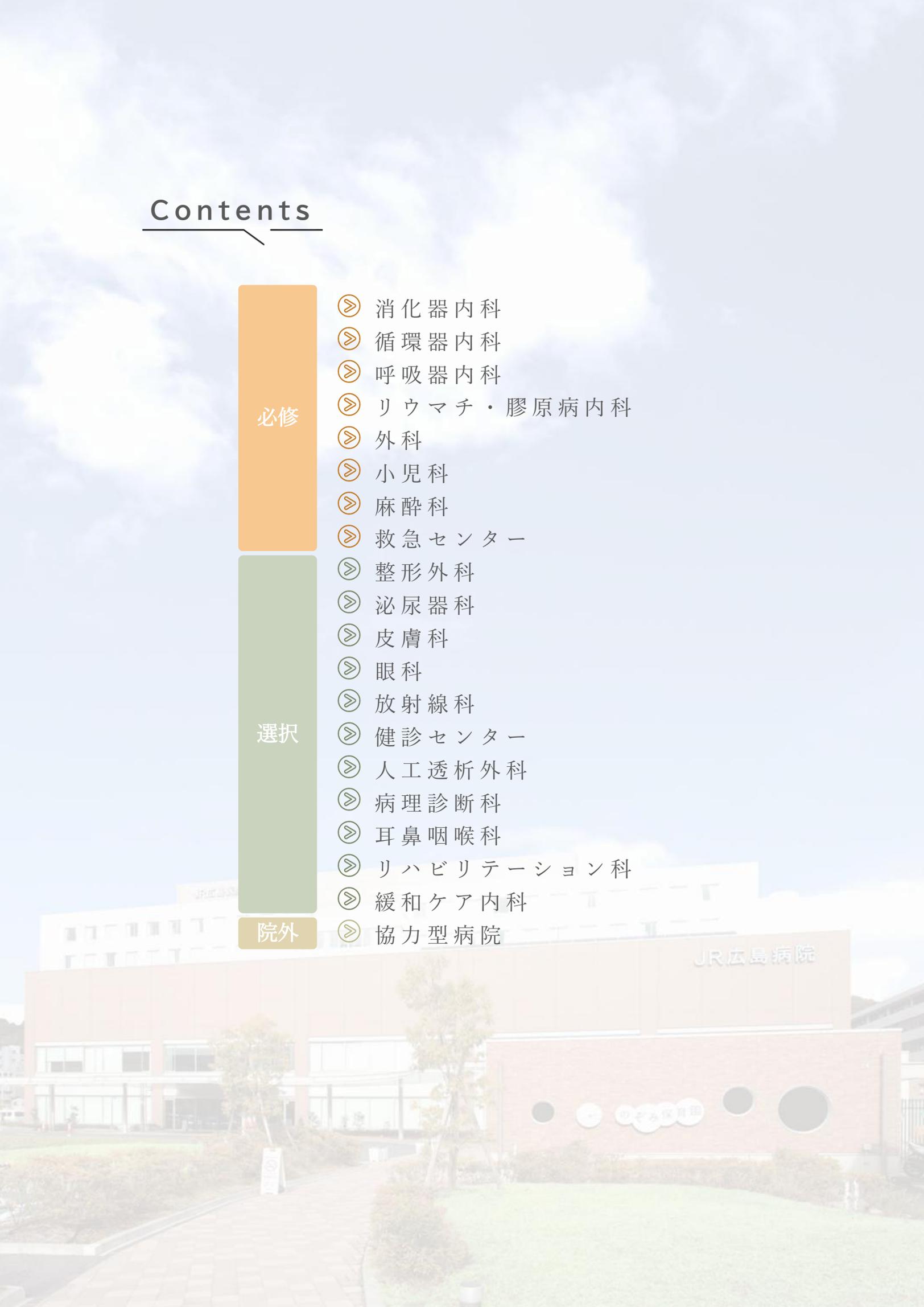
- ⑤ 消化器内科
- ⑤ 循環器内科
- ⑤ 呼吸器内科
- ⑤ リウマチ・膠原病内科
- ⑤ 外科
- ⑤ 小児科
- ⑤ 麻酔科
- ⑤ 救急センター

選択

- ⑤ 整形外科
- ⑤ 泌尿器科
- ⑤ 皮膚科
- ⑤ 眼科
- ⑤ 放射線科
- ⑤ 健診センター
- ⑤ 人工透析外科
- ⑤ 病理診断科
- ⑤ 耳鼻咽喉科
- ⑤ リハビリテーション科
- ⑤ 緩和ケア内科

院外

- ⑤ 協力型病院



消化器内科

病院見学

火曜PM、他相談

特徴

消化器領域における各種疾患の診療をプライマリ・ケアから専門的治療にいたるまで、様々なレベルで行っています。外来は、地域の医療機関からの紹介患者や救急搬送患者などを中心に、数多くの多岐にわたる疾患を診療しています。

研修内容

消化管、肝臓、胆膵領域の指導医がマンツーマンで指導しています。初診外来での問診、検査オーダーを指導し、救急外来での初期対応(採血、点滴ルート確保、ベッドサイドエコー)を指導しています。病棟患者を指導医と一緒に受け持ち、カルテ記載、検査オーダー、輸液指示など指導しています。週1回病棟カンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを指導し、発表しています。

到達目標

- 01 急性腹症の初期診療、診断、治療方針を決めることができる。
- 02 腹部超音波検査を一人でできる。
- 03 上部消化管内視鏡モデルで練習し、手技を理解する。
- 04 入院患者の治療方針を指導医と相談し、決めることができる。

代表的疾患及び病態

急性および慢性消化器疾患全般(消化性潰瘍、炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎、肝硬変、急性膵炎、慢性膵炎など)
消化器腫瘍性疾患(胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌など)

経験できる手技

腹部エコー、上部消化管内視鏡検査(上部消化管モデルで練習)、経鼻胃管留置、腹水穿刺など

	午前	午後	その他
月	胃透視見学	内視鏡見学	急患対応 ERCP、 エコー下穿刺 等の見学は随 時
火	腹部エコー	病棟カンファレンス 内視鏡見学	
水	内視鏡見学	内視鏡見学	
木	初診対応		
金	腹部エコー		

在籍医師一覧

田妻 進 顧問

消化器疾患 (肝・胆・膵)

峠 誠司 病院長補佐

消化器疾患 (肝・胆・膵)

平本 智樹 主任部長

消化器疾患 (食道・胃・小腸・大腸)

加藤 隆夫 部長

消化器疾患 (胆・膵)

山科 敬太郎 部長

消化器疾患 (肝臓疾患)

大原 英司 部長

消化器疾患 (胃・大腸)

石津 雄亮 医師

消化器疾患一般

循環器内科

病院見学

月曜～金曜

特徴

- 1) 当院は広島市東区の基幹病院であり、東区のみならず安芸郡府中町なども医療圏として抱えており、診療する症例は豊富です。
- 2) 緊急疾患にも対応しているため、循環器内科の醍醐味である急性冠症候群や急性心不全（慢性心不全の増悪）などの循環器の緊急疾患にも経験することができます。
- 3) 冠動脈疾患においては冠攣縮性狭心症の診断および高血圧症における副腎性などの二次性高血圧の診断などの症例も豊富で、診断を一緒に行うことによりかかる症例の診断法を体系的に学ぶことができます。
- 4) 院内の急変時の対応を学ぶICLSコースを院内で定期開催しています。

研修内容

- 01 虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧症をはじめとする循環器疾患の基本的な診察および治療
- 02 循環器の臨床実地に即した技能
- 03 循環器に関する薬剤を安全に使用することができること

主な研修内容として、心電図、心臓超音波検査（経胸壁、経食道）、心臓核医学、心臓CT検査、冠動脈造影をはじめとするカテーテル診断・治療、心臓電気生理学的検査、ペースメーカー治療（一時・永久）など。

到達目標

- 01 ◎検尿・検便・検血ができる。
- 02 ◎血圧測定、身体測定、心音聴診ができる。
- 03 ◎心電図、心エコーは自分でとり、単純胸部X線写真とともに読影できる。
- 04 ◎生化学検査の解釈ができる。
- 05 ◎心臓カテーテルの目的が理解でき、冠動脈の解剖が理解でき、所見が読めるようになる。
- 06 ◎心筋シンチ検査法を理解し、解釈できるようになる。
- 07 ◎頭部・胸部CT検査法を理解し、読影できるようになる。
- 08 ◎頭部MRI、MRA検査法を理解し、読影できるようになる。
- 09 ◎動脈血ガス分析が指導医のもとでき、自分で解釈できる。
- 10 ○気道・血管確保、人工呼吸、胸骨圧迫、圧迫止血法、気管挿管、除細動、胸腔穿刺、導尿法および採血法については指導医の管理下でひとりのできるようになる。
- 11 ○2次性高血圧の鑑別のための検査法を理解し、その鑑別を行うことができるようになる。
- 12 ○検査の必要性・概要・侵襲性について患者に説明し、患者とうまくコミュニケーションが取れる。

代表的疾患
及び病態

虚血性心疾患（急性冠症候群を含む）、弁膜性心疾患、高血圧性心疾患、心不全（急性・慢性心不全）、心筋症、不整脈（頻脈性、徐脈性）、脳梗塞、先天性心疾患、大動脈瘤、肺塞栓、深部静脈血栓、高脂血症、高血圧、糖尿病、高尿酸血症

経験できる
手技

- 01 ◎検尿・検便・検血（動脈・静脈）導尿法および採血法については指導医の管理下において一人のできるようになる。
- 02 ◎血圧測定、身体測定、心音聴診
- 03 ◎心電図、心エコーは指導医の元で施行できる。
- 04 ◎心臓カテーテル法の補助、中心静脈カテーテル留置。
- 05 ◎ペースメーカー植込み時の補助。
- 06 ○気道・血管確保、人工呼吸、胸骨圧迫、圧迫止血法、気管挿管、除細動。

	午前	午後
月	外来検査(心エコー) 病棟回診・救急	入院カンファレンス
火	抄読会 外来検査(心エコー) 病棟回診	検査(負荷心電図など) 病棟回診、多職種カンファレンス
水	外来検査(心エコー) 病棟回診	心臓カテーテル検査 病棟回診
木	外来検査(心エコー) 病棟回診	ペースメーカー植込術 負荷検査
金	心電図 外来検査(心エコー)勉強会 病棟回診	心臓カテーテル検査 カテカンファレンス(カテ後)

在籍医師一覧

寺川 宏樹 診療部長/副プログラム責任者

循環器疾患（虚血性心疾患、心不全、末梢血管疾患）

橋本 悠 部長

循環器一般(心アミロイドーシス)

土谷 朱子 副部長

循環器一般

野村 秀一 副院長

循環器疾患、脂質異常症

呼吸器内科

病院見学

月曜～金曜

特徴

呼吸器内科は日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本病院総合診療医学会の認定教育施設です。また県立二葉の里病院内科として日本内科学会教育関連施設に認定されています。呼吸器内科では呼吸器疾患全般と一般内科疾患の外来、入院、急患診療に従事しています。common diseaseと呼ばれる一般内科疾患や呼吸器疾患の診断、鑑別、治療については学会作成のガイドラインに準拠した診療を行うことを基本姿勢としています。

研修内容

病棟

担当医として指導医と診療に当たります。指導医の指示があれば動脈血液ガス採血も行います。他施設から紹介となったケースではこれまでの経過が不明である場合がありますので入院時に病歴、理学所見をとりproblems listを作成します。ウイークデーは担当となった入院患者の診察を1日1回は行い、診療録を記載していただきます（指導医がカルテ記載を認証します）。理学所見（たとえば肺の聴診所見）は急性肺炎などの急性期疾患では日々変化する場合があります。聴診所見の変化と治療経過の相関変化を1度でも経験することは教科書を読むだけでは得ることのできない経験となります。

外来

初診担当医の指導医のもとで診療をおこないます。

到達目標

呼吸生理学・呼吸機能検査

COPD・間質性肺炎をはじめとする慢性疾患、肺炎・慢性呼吸器疾患急性増悪をはじめとする急性疾患に対し肺機能検査・血液ガス分析などを用いた病態生理・呼吸機能評価を理解し、診断・管理を習得する。

内視鏡

気管支内視鏡検査による生検・BALを用いた肺癌・びまん性肺疾患・感染症などの診断を習得する。

画像診断

各種呼吸器疾患につき、胸部レントゲン・CTなど画像診断の評価を習得する。

〔治療〕
救急医療

かかりつけ患者の容態急変に対応するほか、一次・二次救急として初診患者の医療を担っている。

呼吸管理・呼吸リハビリ

慢性呼吸不全に対する在宅酸素療法・急性呼吸不全に対する酸素療法・人工呼吸管理・睡眠時無呼吸症候群に対するCPAPなどの急性期・慢性期の呼吸管理を習得する。呼吸療法認定師と協力しながら呼吸リハビリテーションに対する理解を深める。

外科との
診療連携

気胸・肺癌などの外科手術が必要な疾患では診断・管理を行い、外科との連携を習得する。

感染症治療

細菌学的検査をふくめた診断・治療の経験・習得を図る。院内感染対策・抗生剤の適正使用についても習得を図る。

代表的疾患
及び病態

呼吸器疾患の半数が急性肺炎などの呼吸器感染症ですが、肺癌・間質性肺炎・喘息・膠原病関連性疾患などの診療も経験します。専門外来では、毒ガス障害者外来、禁煙外来、睡眠時無呼吸症候群外来があります。救急では呼吸器疾患以外の疾患の初期対応にあたります。

経験できる
手技

1年目にまわってこられた先生にはルート確保、動脈採血などの基本的手技も研修します。すでに習得済みの先生には、胸水穿刺、胸腔ドレーン挿入、CV挿入、人工呼吸管理、NIPPVなど。胸水穿刺は外来でもおこなうこともありますので指導医の先生と一緒に胸水穿刺を行います。

気管支鏡(BF)検査：BF前の麻酔や気管支鏡の挿入・観察をやってもらうこともあります。

・救急入院が多い診療科ですので、常勤医師と一緒に診療することで救急医療に必要な基本手技を経験することが可能です。

	8:30頃	9:00 ~12:00	午後 13:00~
月	病棟へ ・回診 ・診療録記載 ・処方	新患外来 見学 (新患担当医師 について外来 の見学を 行います)	入院患者の診療・検査、 救急患者の診療を 指導医と一緒に 行います
火			気管支鏡検査
水			【希望時】 専門外来見学(禁煙、SAS)
木			新患カンファレンス
金			

在籍医師一覧

嶋岡 康幸 診療部長

呼吸器、アレルギー、
膠原病、感染症

稲田 順也 部長

呼吸器一般

井原 大輔 部長

呼吸器一般

リウマチ・膠原病内科

病院見学

月曜～金曜

特徴

関節リウマチ・膠原病の診察ができることが目標です。関節リウマチ、膠原病は多臓器に影響をもたらすため、他科との連携を通じて全身臓器の管理能力が培われる研修が特徴です。また発熱、関節痛など日常診療でありふれた症状への適切な対応、鑑別診断のノウハウを習得するための研修を行います。

研修内容

診療科に特徴的な疾患として、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎、その他の膠原病関連疾患や骨粗鬆症、等の診療が研修の大きな柱です。診療にあたる頻度の高い身体症状として、関節痛、筋肉痛、腰痛、発熱、発疹、リンパ節腫脹、全身倦怠感、咳・痰、歩行障害、四肢のしびれ、食欲不振、体重減少等があります。さらに、これらの症状の原因となる疾患を想起し、幅広く迅速な鑑別を行います。救急を要する病態として、呼吸・循環不全や日和見感染症の対応を行います。これらの研修を通じて、関節など運動器の診察法、全身を診るためのシステムティックな診察法、原因が分からない発熱の鑑別別診断、画像診断、免疫内科的治療（グルココルチコイド、免疫抑制剤、抗リウマチ薬、生物学的製剤を含めた分子標的薬）の理解が可能です。

到達目標

- 01 関節リウマチ・膠原病の病態を理解し、全身の診察、診断と薬物治療、全身管理ができる。
- 02 急性病態に際しては、病態の正確な把握と迅速な検査計画が立てられる。
- 03 注射・動静脈採血および末梢静脈の確保ができる。
- 04 基本的な画像の読影、血液検査、生検組織検査の適切な判定ができる。
- 05 グルココルチコイド・免疫抑制剤の使い方を理解する。
- 06 主訴、現病歴、既往歴、家族歴、身体所見、検査成績、画像検査所見、処方、処置、説明と同意取得の正確な医療記載ができる。

代表的疾患
及び病態

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎、等

経験できる
手技

関節エコー、関節穿刺、等

	午前	午後
月	病棟研修	病棟研修 入院患者総括
火	病棟研修	
水	外来研修	カンファレンス 病棟研修
木	外来研修	
金	病棟研修	病棟研修 入院患者総括

在籍医師一覧

渡辺 裕文 主任部長

リウマチ・膠原病内科一般

荒木 慧 副部長

リウマチ・膠原病内科一般

安藤 邦彦 副部長

リウマチ・膠原病内科一般

寺川 雄貴 医師

リウマチ・膠原病内科一般

特徴

日本外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会、内分泌外科学会の教育認定施設です。消化器外科（消化管、肝胆膵）および内分泌外科（乳腺・甲状腺）を中心とした症例を対象に手術を行っています。低侵襲で患者に負担の少ない鏡視下の手術にも積極的に取り組んでいます。癌の手術が多いですが、緊急手術に対しても、鋭意取り組んでいます。

研修内容

症例を通して、外科基本手技および周術期全身管理の習得、術前診断（理学的所見、画像診断）の習熟を行います。個々の臓器はもちろんのこと、全身を総合的に診る、身体だけでなく、「心も診る」外科医を目指します。

到達目標

- | | | | |
|----|--------------------------------|----|--------------------------|
| 01 | 代表的な外科疾患の病態を理解できる | 02 | 術前検査を計画できる。 |
| 03 | 術前の全身状態の評価をできる。 | 04 | 術前の画像検査を読影できる。 |
| 05 | 指導医とともに、患者および家族と良好な人間関係を構築できる。 | 06 | 術後管理（輸液、検査など）を計画できる。 |
| 07 | 手術における助手の役割を理解する。 | 08 | 代表的な手術の手順を理解する。 |
| 09 | 外科スタッフの一員として、多職種とのチーム医療を実践する。 | 10 | 一般的な術後経過を理解できる。 |
| 11 | 患者の状態について、適確に指導医に報告・連絡・相談できる。 | 12 | SOAPに則って、必要十分なカルテ記載ができる。 |
| 13 | 外科においても栄養療法の重要性を理解して、実践できる。 | 14 | 外科基本手技（縫合・結紮）ができる。 |

代表的疾患及び病態

胃癌、大腸癌、直腸癌、胆石症、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、甲状腺腫瘍（癌を含む）、乳癌、肛門疾患（内痔核、痔瘻など）、等

経験できる手技

担当医として、経験豊富な指導医と術前診断および周術期管理について討論を行います。可能なかぎり多くの手術に助手として参加して、外科手術の概要を理解します。特に鏡視下手術を体験する機会が多いです。術後の全身管理を経験することにより、一般の重症患者の管理にも応用できることを目指します。周術期管理はもちろんのこと医療の基本は栄養管理と考え、栄養サポートチームの回診にも参加します。外科医を目指す方は、もちろんのこと、他科志望の方にも役立つ外科研修プログラムです。

	午前	午後	その他
月	手術	手術	
火	回診	病棟・検査	多職種病棟カンファレンス
水	手術	手術	術前カンファレンス
木	手術	手術・NST回診	
金	手術	手術	

在籍医師一覧

住谷 大輔 主任部長

消化器外科（大腸外科）、内視鏡外科

徳永 真和 部長

外科一般

井出 隆太 部長

外科一般

松原 啓壮 副部長

外科一般

特徴

小児科では感染症、アレルギー、川崎病などの急性期疾患を中心とした外来・入院加療を行っています。慢性疾患としては、循環器、膠原病・リウマチ、アレルギー疾患の他、腎疾患、神経疾患、内分泌疾患の診療も行い、必要に応じて専門医との連携をとっています。心身症に対しては、認定心理士のカウンセリングを設け、可能な範囲で対応しています。乳児院及び児童養護施設の嘱託医であるため、施設に赴き診察を行っています。また児童相談所が近いため、虐待により保護された児の診察を行うことがあります。

研修内容

最初は外来や入院の診療見学から開始し、成人とは異なる小児の特性を理解した上で、徐々に以下のことが習得できるように研修を行います。

01

子供の成長・発達と異常に関する基本的知識を習得する。

02

子供の協力を得やすい診察スキルを身につける。

03

養育者の情報と子供の状態観察から病態を推察し、年齢特性を理解した上で鑑別疾患をあげ、必要な検査を選択する経験を蓄積する。

04

小児の薬用量、検査値などが、成長とともに変化することを理解する。

05

頻度の高い疾患（感染症、けいれん、アレルギーなど）については、診断・治療が行えるようにする。

06

予防接種や乳児健診、育児相談など小児のプライマリ・ケアの重要性を理解し、ある程度実行する。

07

疾病（特に慢性疾患）や育児に対する保護者の心理の把握・対処などを理解する。

到達目標

目 標 一 般

小児科及び小児科医の役割を理解し、小児医療を適切に行うために必要な基礎知識・技能・態度を習得する。

目 行 動

01

小児科医として患者やその家族と良好な人間関係を確立できる。

02

指導医に報告や連絡をとり、相談・討論しながら診療を進めることができる。

03

多職種と連携し、チーム医療を実践していく。

04

病児の状態を把握し、必要な診察・検査・治療を開始できる。

05

小児の不安、不満に配慮しながら理学的所見をとることができる。

06

小児科診療に必要な基本的手技（採血、点滴、エコーなど）ができる。

07

必要かつ十分な内容でSOAPに沿ったカルテ記載ができる。

08

他科や他院への紹介状・返信や退院サマリーを適切に記載できる。

代表的疾患及び病態

代表的な疾患

感染症、アレルギー疾患、血管炎（川崎病、IgA血管炎など）、心疾患（不整脈、起立性調節障害、先天性心疾患など）、リウマチ・膠原病疾患、神経疾患（熱性けいれん、てんかんなど）、腎疾患（尿路感染症、ネフローゼ症候群など）、血液疾患（貧血、血小板減少症など）、内分泌疾患（低身長、夜尿症、肥満、思春期早発症など）、消化器疾患（便秘、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患など）、虐待など

その他

予防接種、乳児健診、学校健診の二次健診（心臓検診、検尿など）など

経験できる手技

採血、静脈ライン留置、導尿、心エコー、皮下注射及び筋肉注射など

	午前	午後	その他
月		病棟・外来研修 予防接種	
火		病棟・外来研修 予防接種、乳児健診	希望があれば市の集団健診 (3歳半健診)に同行
水	病棟・外来研修		
木		病棟・外来研修 予防接種	研修中に1回は午後児童養護 施設での診察に同行
金			

在籍医師一覧

下 菌 彩子 主任部長

小児科一般

安村 純子 部長

小児膠原病、小児科一般

麻酔科

病院見学

月曜～金曜

特徴

麻酔科管理の症例は年間1200例あまりです。症例のバリエーションは決して多くはありませんが、様々なリスクを有する患者の全身管理を経験することができます。透析患者の手術も行っており、特徴の一つと言えます。進路に関係なく、すべての研修医にとって有意義な研修となります。

研修内容

患者入室前に担当症例について症例検討を行います。麻酔導入時には気道管理（マスク換気、気管挿管）、静脈路確保などの全身管理に必要な手技を修得します。また全身麻酔管理を通して、循環呼吸管理の基本を学びます。術後は患者の覚醒、抜管のタイミングを学び、退室の判断をします。術後の鎮痛や嘔気嘔吐予防についても学習します。

到達目標

麻酔科の研修を通して、全身管理の基本を修得する。気道管理については、有効なマスク換気が行えるようになること、気管チューブや喉頭上器具による気道確保とその評価が行えるようになること、人工呼吸器の基本的な操作が行えるようになることを目標とする。循環管理については、術中に起こりえる循環動態変動に対して鑑別ができ、手術室のみならず救急医療の場においても適切な輸液療法、薬物療法を行えるようになることを目標とする。

代表的疾患
及び病態

脊柱管狭窄症、膀胱腫瘍、前立腺腫瘍、甲状腺腫瘍、胃腫瘍、結腸腫瘍、直腸腫瘍、急性胆のう炎、急性虫垂炎

経験できる
手技

静脈路確保、マスク換気、喉頭鏡やデバイスを用いた気管挿管、喉頭上器具の挿入

	午前	午後	その他
月	麻酔	麻酔	術前診察
火			
水			
木			
金			

在籍医師一覧

久保 隆嗣 主任部長

麻酔一般

鈴木 麻倫子 部長

麻酔一般

平良 裕子 部長

麻酔一般

久保田 稔 部長

麻酔一般、ペインクリニック

河本 昌志 名誉院長

麻酔一般

救急センター

特徴

当院は広島市を中心とした広島地区の二次救急病院となっており、内科系、外科系を問わず一次・二次救急の救急患者を幅広く受け入れています。救急外来（ER）研修では指導医のもとに救急車等の救急搬送患者の初期診療を主体的に行い、初期対応の知識や技術を習得し適切な対処ができるように研修を行います。

内容 研修

研修は指導医のもとに救急搬送患者の初期診療を主体的に行い、初期診療の基本、生命機能予後に係わる緊急を要する病態や疾病、外傷では迅速な評価と適切な対応などが理解できるよう知識や技術の習得を行います。

到達目標

- | | | | |
|----|--|----|------------------------|
| 01 | 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。 | 02 | バイタルサインの把握ができる。 |
| 03 | 重症度および緊急度の把握ができる。 | 04 | ショックの診断と治療ができる。 |
| 05 | 一時救命処置(BLS)および二次救命処置(ACLS)ができる。 | | |
| 06 | 人工呼吸器の基礎を理解し施行できる。 | 07 | 専門医への適切なコンサルテーションができる。 |
| 08 | 血液ガス分析、心電図12誘導、超音波検査は自ら実施し、結果を解釈できる。 | | |
| 09 | 血液検査（血算・生化学検査等）、尿検査、便検査、細菌学的検査、胸腹部単純X線検査、CT、MRI等は検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。 | | |

代表的疾患及び病態

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 一般救急疾患（発熱、呼吸困難、胸痛、腹痛、意識障害など） 消化器系疾患（急性腹症、消化管出血など） 循環器系疾患（ショック、急性心不全、急性冠症候群など） 呼吸器系疾患（急性呼吸不全、重症肺炎など） | <ul style="list-style-type: none"> 代謝性疾患（電解質異常など） 急性腎不全・急性肝不全・多臓器不全など 敗血症 外傷 心肺停止 |
|--|--|

経験できる手技

- | | |
|--|---|
| <h3>手技</h3> <ul style="list-style-type: none"> 採血法（静脈、動脈） 静脈路確保および注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈内） 用手気道確保、気管挿管 バッグバルブマスク等による用手換気 胸骨圧迫心臓マッサージ 電氣的除細動 導尿、胃管・ドレーン・チューブ類の挿入と管理 局所麻酔 圧迫止血法 軽度の外傷処置 | <h3>治療</h3> <ul style="list-style-type: none"> 輸液・輸血療法 酸素療法・人工呼吸管理 循環評価に基づいた循環管理 体液電解質・血糖・栄養管理 感染症診断と抗菌薬治療 集中治療に必要な薬物療法 鎮静・静脈麻酔・疼痛管理 |
|--|---|

	午前	午後	その他
月	救急外来での 初期治療	救急外来での 初期治療	
火			
水			
木			
金			

在籍医師一覧

寺川 宏樹 主任部長

循環器疾患（虚血性心疾患、心不全、末梢血管疾患）

伊関 正彦 副センター長

整形外科

病院見学

月曜～金曜

特徴

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建を目指す領域であり、脊椎、上肢、下肢などの幅広い領域を扱います。当院の整形外科研修プログラムでは、運動器に関する科学的知識と社会的倫理観を備え、新しい知識と技能を習得できるような、基本的な臨床能力を身に着けた臨床医を目標とします。

研修内容

運動器疾患の診断の重要性を理解し、皮膚縫合法やギプス固定法などの基本的手技を修得します。骨折、脱臼など基本的な外傷から四肢切断、脊髄損傷などの高度な運動器救急外傷、疾患に幅広く対応できる診療能力を修得し、特殊な先天性疾患、慢性疾患、骨・軟部腫瘍、特殊手技として関節鏡視下手術や顕微鏡視下手術を研修します。

到達目標

医師として必要最低限の整形外科基本手技（皮膚縫合法・脱臼 整復法・骨折整復法など）を修得することです。整形外科基本手技は外来・病棟・手術室にて指導医の下で実際に行い、症例を重ねて修得していきます。

- 01 救急医療 臨床研修医が救急疾患・外傷に対応できる基本的診断能力および整形外科的手技を修得する。
- 02 慢性疾患 臨床研修医が慢性疾患の術前診断および術後評価を行う際に必要な基本的診断能力および適切な診断を行うために必要な整形外科的疾患の重要性・特殊性について研修し、整形外科的手技を修得する。
- 03 基本手技 整形外科の基本的手技の意義を理解した上で、安全で確実な知識と手技を修得する。
- 04 医療記録 外傷の救急・慢性疾患について医療記録に必要事項を正確に記載し、さらに診療を進めていくことを修得する。

代表的疾患
及び病態

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層を対象とし、骨折・脱臼から四肢切断・脊髄損傷などの急性外傷、膝関節外科疾患、股関節外科疾患、骨・軟部腫瘍疾患、手の外科疾患、脊椎・脊髄外科疾患、形成外科疾患、肩関節外科疾患に関して研修を行います。

経験できる
手技

急性期の疾患から慢性期の疾患まで幅広く、副主治医として診断、治療にあたり、代表的疾患に対する診察、検査、手術の基本を学びます。特に、関節腔内注射や脊髄造影などを修得、あわせて皮膚縫合やギプス固定などの手技を修得します。また、関節鏡視下手術や顕微鏡下手術の基本を修得し、臨床医として実際の臨床にすぐに役立つ研修を行います。

	午前	午後	その他
月	外来・手術	手術	総合回診・ カンファレンス
火			
水			
木		検査：脊髄造影 神経ブロック	
金		手術	

在籍医師一覧

田中 信弘 診療部長

脊椎・脊髄外科

田島 稔章 副部長

整形外科一般

岩佐 和俊 副部長

整形外科一般

神原 智大 副部長

整形外科一般

三谷 雄己 副部長

整形外科一般

特徴

前立腺肥大、尿路性器悪性腫瘍から、感染症、尿路結石、神経因性膀胱、尿失禁まで、泌尿器全般の疾患に対応しているほか、腎・尿管結石の疼痛コントロールなども行っています。また、TUR-PやTUR-Btといった内視鏡手術から開腹手術までさまざまな手術を実施しています。特に当院のTUR-Btは、当科鶴飼医師（元副院長）の考案した経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術（TURBO）を採用しており、正確な組織診を可能にする手術法として注目されています。

研修内容

尿路・男性性器疾患について、基本的診療、処置、手術を研修します。尿検査、超音波検査、X線検査、膀胱鏡などの基本的検査の実技と結果の解釈などを修得します。手術を中心とする泌尿器外科を得意としており、1日平均入院患者は15人にも関わらず、年間手術件数は約400例です。

到達目標

- 01 基本的な理学的検査の理解と手技の習得（腹部・外陰部・直腸内触診所見の取り方と理解）。
- 02 泌尿器科検査法の理解と手技の修得（腹部超音波検査、膀胱鏡、前立腺生検等）。
- 03 基本的な泌尿器科疾患に対して適切な治療方針（保存的治療・手術的治療）が決定できる。
- 04 基本的処置法の習得（導尿、尿道カテーテル留置等）。
- 05 泌尿器科救急患者の処置ができる。

代表的疾患
及び病態

尿路上皮性器癌（膀胱癌、腎盂尿管癌、腎癌、前立腺がん、精巣）

経験できる
手技

尿検査、超音波検査、X線検査、膀胱鏡、導尿、尿道カテーテル留置

	午前	午後	その他
月	外来診療 病棟回診	検査	入院・外来患者 カンファレンス
火		手術	
水		検査 頻尿外来	
木		手術	
金		検査	

在籍医師一覧

橋本 邦宏 診療部長

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍、腹腔鏡手術

井上 勝己 部長

泌尿器一般、排尿機能障害

池田 樹生 医師

泌尿器一般

鶴飼 麟三 医師

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍

特徴

皮膚疾患全般を対象としており、広島市東区唯一の病院皮膚科として、広島大学病院など他の病院・診療所との連携も密に行っています。

皮膚疾患に対しては、的確な診断、適切な治療を確実にを行うことを心がけております。詳細な問診や血液検査などを参考にしつつ、患者さんの生活習慣や環境を考え、生活指導を行うようにしています。点滴治療を必要とする急性感染症は、入院を原則としてすみやかな改善に努めております。

昨今、生物学的製剤の登場で重症の乾癬やアトピー性皮膚炎、慢性特発性蕁麻疹など慢性で難治な皮膚疾患も著明な改善がみられ患者さんのQOLが上がる症例が多くあります。当院では従来の治療から最新の生物学的製剤を使用する治療まで幅広く行っております。

研修内容

外来診察、入院患者さんの管理、救急患者さんの対応、手術が主な内容です。外来では初診の患者さんの予診をとる、傷の処置や壊死組織のデブリードマン、軟膏の外用指導、胼胝や鶏眼の削切、炎症性粉瘤などの皮膚切開術、皮膚生検、疣贅などに冷凍凝固療法があります。外来処置でも手術でも、できそうな手技はどんどんやってもらいます。

到達目標

- 01 検鏡で真菌や疥癬虫を探せるようになる。
- 02 創傷処置、軟膏処置、冷凍凝固療法、皮膚生検、胼胝処置、デブリードマンができるようになる。
- 03 皮膚疾患の鑑別診断を挙げられるようになる。
- 04 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、蜂窩織炎や帯状疱疹、皮膚悪性腫瘍など症例が多い疾患に関して治療法が理解できる。

代表的疾患
及び病態

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、自己免疫性水疱症、蜂窩織炎、帯状疱疹、薬疹、褥瘡、円形脱毛症、粉瘤、基底細胞癌、有棘細胞癌、日光角化症、ボーエン病

経験できる
手技

真菌の検鏡、傷の処置や壊死組織のデブリードマン、軟膏の外用指導、胼胝や鶏眼の削切、炎症性粉瘤などの皮膚切開術、皮膚生検、疣贅などに冷凍凝固療法、皮膚縫合・真皮縫合、腫瘍摘出術、ステロイド局所注射

	午前	午後	その他
月			
火			
水	外来	外来	
木			
金			

在籍医師一覧

森岡 理恵子 主任部長

皮膚科一般

山崎 あかり 副部長

皮膚科一般

眼科

病院見学

月曜PM・火曜PM
木曜PM

特徴

近隣の眼科から白内障や緑内障の患者さんの紹介が多い科です。また、糖尿病などの全身疾患に関連する診療を行います。時に急性緑内障発作などの眼科救急疾患も経験します。

緑内障の治療は病状に応じて点眼、レーザー、手術などの中から適切な治療法を選択して行います。糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症、網膜裂孔に対するレーザー治療や、黄斑浮腫や加齢黄斑変性症に対する硝子体内注射も行っています。ドライアイに対する涙点プラグ挿入、翼状片切除術もしています。

研修内容

眼科診療では問診、視力検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、必要に応じて画像検査や視野検査などを行います。問診ではどのようなことをきいたら良いのか、どんな検査を行い、結果をどのように評価するか、治療計画をどのように立てるかといった一連の流れを学んでいただきます。

到達目標

- 01 チーム医療の重要性を熟知し、医療関係者、患者家族と十分良いコミュニケーションがとれる。
- 02 適切な問診ができる。
- 03 視力検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査ができる。
- 04 清潔操作を熟知し、手術助手ができる。
- 05 急性緑内障発作などの眼科救急疾患の知識を身に付け、初期対応ができる。
- 06 視機能は神経疾患をはじめとする全身疾患と密接に関連していることを知り、適切な他科コンサルテーションができる。

代表的疾患
及び病態

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、加齢黄斑変性症、ドライアイ、角結膜炎、網膜裂孔、翼状片など。

経験
できる
手技

視力検査、眼圧検査、細隙灯顕微鏡検査、隅角検査、眼底検査、視野検査などを指導医の指導のもとに実施または見学します。手術の見学や助手をしてもらいます。

	午前	午後
月	外来	術前検査と手術説明、 日帰り手術
火	外来	術前検査と手術説明、 蛍光眼底造影検査、レーザー治療、硝子体内注射など
水	手術	手術
木	外来	術前検査と手術説明、 蛍光眼底造影検査、レーザー治療、硝子体内注射など
金	手術	手術

在籍医師一覧

田中 文香 主任部長

緑内障・眼科一般

高本 有美子 部長

眼科一般

世良 有紗 副部長

眼科一般

特徴

地域医療の中核病院として外傷を含めた急性疾患、悪性腫瘍、さらに連携している他施設、開業医からの検査依頼などさまざまな種類の画像診断を習得することができます。

研修内容

- 01 CT、MRI、核医学など各種検査の意義、適応について理解し、臨床情報に基づいた適切な撮像法の指示を経験する。
- 02 造影検査については、その適応、禁忌を理解し、リスク低減法および副作用発現時における対処を経験する。
- 03 専用の読影端末を使い、CTやMRIを主体に指導医のもとで画像診断レポートを作成する。
- 04 連携している他施設からの検査依頼で訪れた患者の問診、カルテ記載を行い、画像診断レポートを作成、返却する。
- 05 病院が週1回開催しているカンサーボード、広島大学放射線診断科が週1回開催しているカンファレンスに参加する。

到達目標

- 01 放射線診療に必要な放射線の物理作用と生物作用を理解する。
- 02 放射線防護の理念と目標を理解する。
- 03 画像診断の各モダリティ（X線撮影、CT、MRI、核医学検査）の基本的な原理を学ぶ。
- 04 画像診断と関連する基本的な解剖、生理を学ぶ。
- 05 代表疾患について画像所見を説明できる。
- 06 撮像された画像について客観的に適切な用語で所見を記載し、検査目的に即した内容でレポートを指導医の下で作成できる。

経験できる
手技

各種画像診断レポートの作成

	午前	午後	その他
月	読影業務	読影業務	
火			カンサーボード
水			
木			広島大学画像カンファレンス
金			

在籍医師一覧

伊達 秀二 主任部長

画像診断全般

廣延 綾子 副部長

画像診断全般

前田 智郷 副部長

画像診断全般

特徴

人間ドック、健診受診者の疾患の早期発見と病気の予防に努めていく

研修内容

- 01 日々行なっている受診者の診察及び検査結果の説明・生活指導の見学
- 02 胸部X線の読影
- 03 検査データの整理とコメントの入力
- 04 実際に診察及び結果説明を行っていく
- 05 週一日は超音波検査(腹部、心臓、頸動脈、甲状腺)を行う
- 06 週一日は上部消化管X線検査を見学する
- 07 マンモグラフィ、脂質異常症、高血圧症などのレクチャー
- 08 当院特有のオプション検査 (small dense LDL、LOX-index、AEGs、MCGなど) を理解する

到達目標

- 01 人間ドック学会推奨の一日ドック基本項目について正常・異常の判定ができる
- 02 胸部レントゲン写真、心電図をたくさん見て“異常なし”、“正常範囲内”がわかる
- 03 受診者に検査データを説明し、問題点の指摘、生活指導を行う
- 04 精査・治療が必要な場合は適切に紹介できる

代表的疾患
及び病態

メタボリックシンドローム、糖代謝異常、高血圧症、高尿酸血症、脂質異常症、肝機能障害などの血液データの異常な病態、心電図異常、胸部X線異常（肺癌など）、眼底異常（緑内障など）、上部消化管異常、下部消化管異常、腹部超音波異常など
婦人科検査においては乳癌や子宮癌など

経験できる
手技

- 超音波検査の診断、上部消化管X線の診断
- オプション検査として、CT検査、頭部MRI検査などの診断

	午前	午後
月	腹部超音波	定期検診・胸部X線読影・結果整理
火	診察結果説明	定期検診・胸部X線読影・結果整理
水	診察結果説明	胸部X線読影・結果整理
木	上部消化管X線	レクチャー・胸部X線読影・結果整理
金	診察結果説明	定期検診・胸部X線読影・結果整理

在籍医師一覧

野村 秀一 副院長

循環器疾患、脂質異常症

鳩岡 晴奈 部長

人工透析外科

病院見学

月曜～金曜

特徴

腎疾患の基本的な問診・視診・触診・聴診技術や基本的な検査の実施・判読等の習得を目標とします。腎疾患は、高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常、水電解質・酸塩基平衡異常、貧血、骨・ミネラル代謝異常、心血管疾患、消化器疾患、神経疾患、悪性腫瘍、感染症等さまざまな合併症を有するため、腎疾患のみならず総合的な知識や経験を身に付けることが可能です。さらに、本プログラムは慢性維持透析（血液透析、腹膜透析）、さらに急性血液浄化法の研修も行います。

研修内容

病棟	月曜から金曜まで病棟での研修を行う。主治医たる指導医1名のもと副主治医になる。	外来	必要に応じて主治医たる指導医1名のもとに研修する。
検査手術	初期研修に必要な検査を指導医の指導のもとに実施する。血液透析カテーテル挿入術、透析シャント作製・再建術、経皮的血管形成術（シャントPTA）、腹膜透析カテーテル留置術		
カンファ	月・水・金曜日15:15透析カンファレンス、金曜日15:45症例検討会 ※適宜、研修医レクチャーを行う		
評価方法	1ヶ月毎に評価し、2ヶ月後に総合評価をする。		

到達目標

一般目標	急性疾患	急性疾患（慢性疾患の急性増悪時）に対応できる基本的診察能力を身につける。	慢性疾患	適正な診療を行うために必要な慢性疾患の病態について理解する。
	検査手技	疾患の診療のために必要な基本的検査・手技の理解と習得をはかる	医療記録	疾患に対する理解を深め、問題指向型カルテ記載方式に則した医療記録の記載をする。
行動目標	急性疾患	患者の病態を正しく把握し、迅速に検査計画を立て、実行する能力を身につける。重症救急疾患（急性腎不全、高カリウム血症、敗血症など）への対応		
	慢性疾患	<ol style="list-style-type: none"> 代表的慢性疾患の病態を理解する。慢性糸球体腎炎、慢性腎不全、糖尿病性腎症、膠原病に伴う腎障害 代表的慢性疾患に対する診断と治療を理解する。腎不全時の薬物療法、食事療法、電解質・体液コントロール、透析導入適応の判断、透析療法（血液透析、腹膜透析）、腎移植 終末期医療における疼痛管理、精神状態などを理解する。 		
	基本手技	<ol style="list-style-type: none"> 全身の観察（視診）、身体計測を行うことができる。 頭頸部・胸部・腹部・四肢の診察を適切に行うことができる。 注射・動脈採血を適切に行うことができる。 検尿（尿沈査、尿化学を含む）を適切に行うことができる。 胸・腹部X線の読影を適切に行うことができる。 血算および血液生化学検査の結果を適切に判定することができる。 腹部超音波検査を実施して、その結果を適切に判定できる。 CT、MRIなどの画像診断を適切に判読できる。 生検組織検査の結果を適切に判定することができる。 末梢静脈の確保ができる。 消毒、清潔操作が正しくできる。 胸腔・腹腔穿刺が正しくできる。 感染の標準予防策の実施ができる。 		
	医療記録	<ol style="list-style-type: none"> 主訴、現病歴、家族歴、既往歴、身体所見を正確に記載できる。 検査成績や画像検査所見の正確な記載ができる。 処方や処置の正確な記載ができる。 説明と同意取得の正確な記載ができる。 入院時治療計画書や退院時療養指導書、退院時総括を適切に記載できる。 紹介状の作成ができる。 		

代表的疾患及び病態

代表的な疾患
慢性腎炎、急性腎炎、慢性腎不全、急性腎不全、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、全身疾患に伴う腎障害

代表的な治療
降圧療法
血液透析
腹膜透析

経験できる手技

血液透析カテーテル挿入術、透析シャント作製・再建術、経皮的血管形成術（シャントPTA）、腹膜透析カテーテル留置術

	午前	午後	その他
月	病棟、透析センター	外来、病棟 透析カンファレンス	HD, PDアクセス関連手術は随時行っている
火	病棟、透析センター	シャントPTA	
水	シャントPTA	病棟、透析センター 透析カンファレンス	
木	外来、病棟、透析センター	シャントPTA	
金	病棟、透析センター	透析カンファレンス 症例検討会	

在籍医師一覧

越智 誠 副院長

透析アクセス手術、一般外科

平昭 吉野 副部長

透析外科一般

病理診断科

病院見学

月曜～金曜

特徴

病理診断科はがん治療や感染症診療の基盤である病理診断を行う中央診療部門の一つと位置付けられています。必修診療科をローテーションした後に、病理専門医研修指導医の下で臨床検査技師と協働し、当院の各診療科から提出される臓器の生検材料および手術材料の病理診断を中心に研修します。外科、消化器内科、皮膚科、泌尿器科等を将来専攻予定の専門領域の臓器に限定した病理診断学研修にも応じます。希望があれば、病理学会の地方会等で症例報告することも可能です。

研修内容

病理組織診断

毎日午後、前日に摘出されたホルマリン固定後の臓器の肉眼診断（含切り出し）を行う。翌日あるいは数日後に作成完了した顕微鏡標本を観察し、仮報告書を作成する。原則、その翌日午前中に指導医と共に鏡検し、臨床所見（経過、画像）を包括して、報告書を完成させ、指導医と連名で報告を完了させる。習熟度に応じて、指導医の判断のもとに術中迅速診断にも参画し、指導医と連名で結果を報告する。

細胞診

指導医の他、必要に応じて細胞検査士資格を有する臨床検査技師の指導の指導を受ける。当院で経験できる臓器は、消化器、泌尿器、皮膚、甲状腺、軟部組織、子宮、脊髄、および脊椎等で、これらの代表的腫瘍および感染症である。

病理解剖

厚生労働省の解剖資格を有する医師（当院では病理診断科主任部長）が執刀し、初期研修医は見学する。病理診断科をローテーション中に開催されるCPCについては、執刀医と共に病理所見および剖検診断をプレゼンテーションする。

到達目標

01

病理診断依頼書に記載された臨床情報および要望を理解し、説明できる。

03

手術材料の切り出し（組織学的観察を行う部分の採取）を指導医とともに施行できる。

05

既診断症例の臨床像、肉眼および組織所見を説明できる。

07

細胞診の役割、検体提出の方法、および診断方法を説明できる。

09

臨床検査技師・細胞検査士と協働できる。

02

検体採取から病理診断までの一連の作業を説明できる。

04

国際標準的な教科書を参照しながら、代表的な疾患の典型例の最終診断を下せる。

06

術中迅速診断における臓器提出から診断報告までの過程を述べることができる。

08

免疫組織化学、電子顕微鏡、コンパニオン診断（遺伝子診断）の役割を説明できる。

10

カンサーボード等院内のカンファレンスでプレゼンテーションができる。

経験できる手技

当院で経験できる摘出材料（臓器）の肉眼的評価、切り出し図の作成、および組織標本の観察の基本。

代表的疾患及び病態

消化器（含上気道）、泌尿器、皮膚、軟部組織、子宮、脊髄および脊椎等の代表的腫瘍および感染症

	午前	午後	その他
月	欧文論文抄読会・病理診断・サインアウト・術中迅速診断		
火			
水	病理診断・サインアウト・術中迅速診断	切り出し・サインアウト・術中迅速診断	院内カンファレンス・学会発表準備および論文執筆（症例報告、病理診断学的研究）
木	欧文論文抄読会・病理診断・サインアウト・術中迅速診断		
金			

在籍医師一覧

中山 宏文 臨床研修部長／プログラム責任者

病理診断（腫瘍病理診断（特に消化管、表在性軟部組織）、脂肪肝炎）、腫瘍間質

耳鼻咽喉科

病院見学

月曜・木曜

特徴

耳鼻咽喉科は聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚などの感覚器を扱うと同時に、摂食嚥下、音声言語、呼吸器などの機能と、それに必要な口腔、咽頭、喉頭、鼻腔の専門的治療を行うことができます。最近では耳鼻咽喉科・頭頸部外科と表記する施設が増えてきており、顔面、甲状腺、気管の外科的治療も行っていることを表現しています。耳鼻咽喉科は、頸から上の脳以外の内科的、外科的医療を担い、サブスペシャリティが豊富にあります。風邪のような身近な疾患から、人口聴覚器、ロボット支援手術など先進的な医療に携わっており、患者層は全年齢が対象です。当院は市中病院であり、クリニックからの紹介でより高度な検査や、集中治療を要さない疾患の入院、手術を行っています。

研修内容

病棟

- 01 入院患者担当医として、診断、検査、治療に携わる。
- 02 入院患者の病態把握、治療方針の決定を目的にグループミーティングに参加する。
- 03 入院患者のQOLを考慮した全人的アプローチを行う。
- 04 必要に応じて他科や他職種にコンサルテーションを行う。

外来

- 01 患者心理を理解し適切な態度をとり、診断に必要な病歴聴取ができる。
- 02 診療の補助に携わり、耳鼻咽喉科外来診療のアプローチ法を学ぶ。

到達目標

目一般

- 01 医師として、また耳鼻咽喉科医としての態度、基本姿勢を学ぶ。
- 03 耳鼻咽喉科の慢性疾患の基本的診断、治療、管理の基礎を学ぶ。
- 05 耳鼻咽喉科疾患の診断、治療に必要な基本的手技を学ぶ。

- 02 耳鼻咽喉科の急性疾患に対応できる基本的診断能力および耳鼻咽喉科の手技を習得する。
- 04 他科との連携における耳鼻咽喉科の役割を理解する。
- 06 必要なことを簡潔明瞭に、定期的に記録することを学ぶ。

目行動

- 01 患者や家族に対して礼儀正しく誠実な態度でコミュニケーションがとれる。
- 03 視診（耳鏡、鼻鏡、舌圧子）、触診の基本的手技を学ぶ。
- 05 治療効果、副作用、コンプライアンスを考慮した薬剤選択ができる。
- 07 多職種と連携を行い、効率よくより質の高い医療を提供する。
- 09 他科へのコンサルテーションや紹介状の返書が適切に作成できる。

- 02 鑑別疾患を念頭におき、効率よく問診をとり記載を行う。
- 04 耳鼻咽喉科診療に必要な検査の実施または介助を行い、その結果を判定する。
- 06 指導医に報告、相談を行い診療方法の検討を行う。
- 08 SOAPに沿った必要かつ十分な内容の診療録が記載できる。

代表的疾患及び病態

急性咽喉頭炎、慢性扁桃炎、アレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎、突発性難聴、加齢性難聴（補聴器）、中耳炎、内耳性めまい、鼻出血、頸部リンパ節炎、甲状腺結節、嚥下障害

経験できる手技

聴力検査、眼振検査、重心動揺計、頸部超音波検査、静脈性嗅覚検査、嚥下内視鏡検査の補助

	午前	午後
月	病棟回診 外来	特殊外来・カンファレンス
火		手術
水		特殊外来・カンファレンス
木		
金		

在籍医師一覧

宮里 麻鈴 主任部長

耳鼻咽喉科一般

五月女有華 副部長

耳鼻咽喉科一般

リハビリテーション科

病院見学

月曜～金曜

特徴

当院は運動器障害、脳血管障害の患者を中心に、様々な疾患の急性期から回復期まで、患者・家族のニーズに合わせて対応できるリハビリテーション総合承認施設であり、運動機能の回復をサポートする理学療法士をはじめ、日常生活動作の回復をサポートする作業療法士、および言語機能・高次脳機能や嚥下機能の回復をサポートする言語聴覚士がさまざまなリハビリテーションを行います。

入院患者及び外来患者のリハビリテーションを担当することにより、リハビリテーション診療における基本的な知識と技術、医師としての基本的な態度を修得していくとともに、リハビリテーションの理念とチーム医療のあり方を一緒に考え、学んでいきましょう。

研修内容

リハビリテーション医学では高齢の方や障害を持つ方のADLおよびQOLの維持・向上と社会復帰を目的に、急性期から回復期、生活期、終末期にわたって、地域の医療、保健、福祉、介護サービスとも連携しながら、多くの専門職とともに根拠に基づいた包括的なチームアプローチを実践していきます。当科では、医師として最低限必要なリハビリテーション医学・医療の知識・技能・態度を身につけることを目標に研修を行います。主に入院患者の運動器疾患、神経系疾患、心臓疾患などのリハビリテーションを主体に研修してもらいます。

到達目標

- 01 リハビリテーションおよび地域包括ケアユニットを理解する
- 02 高齢者の代表的な疾患群について病態を理解する
- 03 病歴だけでなく生活環境も聴取することができる
- 04 身体所見、神経学的所見がとれ、評価ができる
- 05 日常臨床において頻度の高い疾患の画像診断における特徴を学ぶ
- 06 運動器・循環器・脳血管・呼吸器・廃用・がんに対するリハビリテーションを理解し、処方することができる
- 07 義肢装具の処方を理解する

代表的疾患
及び病態

- ・ 脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症など）
- ・ 膝の疾患（半月板損傷や靭帯損傷など）
- ・ 心不全
- ・ 誤嚥性肺炎
- ・ 廃用症候群など

	午前	午後
月	整形外科の手術 病棟リハビリ	病棟回診 病棟リハビリ
火	運動器疾患の診察	病棟リハビリ カンファレンス
水	リハビリ外来の診察	病棟回診 病棟リハビリ
木	整形外科の手術 病棟リハビリ	病棟回診 心臓疾患リハビリ
金	運動器疾患の診察	装具の処方や作成

在籍医師一覧

田中 信弘 診療部長

脊椎・脊髄外科

近本 哲士 副部長

緩和ケア内科

病院見学

月曜～金曜

特徴

広島では少ない緩和ケア病棟のひとつとして、東区のみならず県外からも要望が集まっています。すなわち、病に苦しむ多くの方に出会える（教えを頂く）機会を持てる環境にあります。これからの超高齢化とがん社会の中で、病でなく生きることに関わるかを考える機会にしてもらえれば幸いです。

研修内容

がん診療を推進する上で、緩和ケアの役割は重要です。がん対策基本法、がん対策推進基本計画など、国も現場医師に対し、その認識を強く求めています。命ではなく生に重きを置き、より広い視野で病に苦しむ人と対峙する姿勢が望まれるところです。そこで、多くの病院では緩和ケアチームを配置し、がん診療に平行して関わりを持つことを進めています。緩和ケア病棟においては、もっと踏み込んだ状況において、強い苦しみを持つ方々へ全人的アプローチを果たすべく設備の環境も含め工夫をしています。

当科においては、多職種（宗教家、臨床心理士、ソーシャルワーカー、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、看護助手、看護師、医師など）による関わりを目の当たりにもらい、医師以外の支援の重要性を実感していただきたいです。

到達目標

- 01 患者の問診、身体診察を適切に行い、画像や検査結果との関連を理解する。
- 02 患者、家族と関わる中で苦悩はどこにあるのか、何を人生の望みとしているのか等のアプローチをする。
- 03 身体的苦悩に対し、適切な判断と対応策を提案する。
- 04 精神的苦悩はどこにあるのかアプローチし、多職種との連携を通して緩和する方法を探る。
- 05 患者、家族の社会的ニーズを探る中で、それを果たすための手段の一つとして社会支援について知識を広める。
- 06 受け持ち患者の経過、全人的苦痛（身体、精神、社会的、スピリチュアル）への対応策を総括し、研修中に知りえた知見・感想を含めたレポートを指導医に提出する。

	8:00～8:30	8:30～9:00	9:00～12:00	12:00～17:00
月	オリエンテーション (初日のみ)	カンファレンス	新入院症例診察 等	講義、病棟処置 等
火		カンファレンス	新入院症例診察 等	外来(指導医)
水		カンファレンス	新入院症例診察 等	多職種カンファレンス 症例プレゼン+講義
木		カンファレンス	新入院症例診察 等	イベント+講義
金		カンファレンス	新入院症例診察 等	

協力型病院

協力型臨床研修病院

- 新生児 精神 県立広島病院
〒734-8530 広島県広島市南区宇品神田1丁目5-54
- 麻酔 産婦人 広島赤十字・原爆病院
〒730-8619 広島県広島市中区千田町1丁目9番6号
- 産婦人 市立三次中央病院
〒728-8502 広島県三次市東酒屋町10531番地
- 脳神経内科 医療法人翠清会 梶川病院
〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1丁目1番23号
- 精神 医療法人社団更生会 草津病院
〒733-0864 広島県広島市西区草津梅が台10番1号
- 小児 広島市立舟入市民病院
〒730-0844 広島市中区舟入幸町14番11号

臨床研修協力施設

- 地域医療 医療法人たかまさ会 山崎病院
〒732-0032 広島県広島市東区上品1丁目24-9
- 放射線 広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)
〒732-0057 広島県広島市東区二葉の里3丁目2-2
- 地域医療 社会福祉法人 恩賜財団 済生会呉病院
〒737-0821 広島県呉市三条2丁目1-13
- 地域医療 広島市東保健センター
〒732-8510 広島県広島市東区東蟹屋町9-34
- 救急 社会医療法人近森会 近森病院
〒780-8522 高知県高知市大川筋1丁目1-16
- 地域医療 国民健康保険 平戸市民病院
〒859-5393 長崎県平戸市草積町1125-12

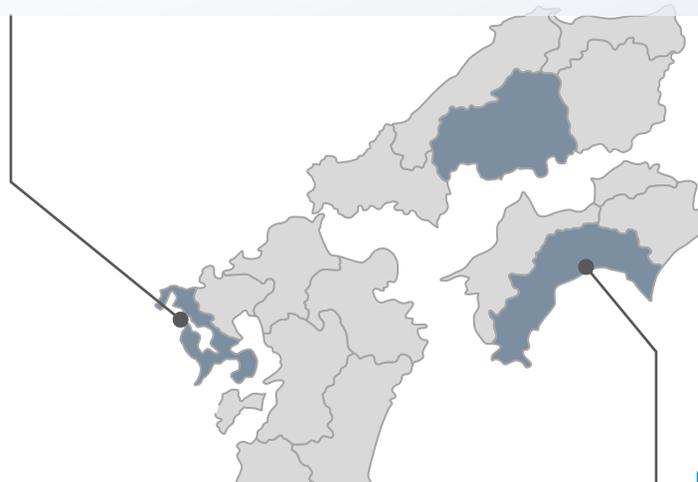


平戸市民病院は、「長崎大学病院国境を越えた地域医療支援機構」の臨床教育拠点として地域医療の最前線での研修を行っています。

初期研修医の地域医療研修を各地から受け入れており、毎月3人から4人の研修医が学びの場として、平戸市民病院を訪れます。

研修を通じ、患者の年齢、性別、症状、重症度に関わらず、『まず診る』ことができ、自分の能力の範囲内で治療を行い、必要に応じて適切な専門診療科に紹介できる『総合医』としての技術と知識を身に付けることができます。

国民健康保険 平戸市民病院ホームページより引用



当院は急性期病院・地域医療支援病院であり、救急疾患や一般的疾患を多く経験することができます。

ERでの診療患者数は一人あたり約800-1,000名/年、受け持ち入院患者数は約80-100名と圧倒的な症例数により、充実した初期研修が可能となっています。Walk in患者さんの中の重症疾患を見逃さない感覚的なものも養うことができると思います。当院で初期研修を終えた専攻医も多数指導にあたっており、理想的な屋根瓦方式の教育体制がとれています。



近森病院ホームページより引用

ACCESS



〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目1番36号

お問い合わせ

事務部 総務企画課 初期臨床研修担当者

☎ 082-262-1170

✉ saiyou@hpho.jp